

|             |                         |       |
|-------------|-------------------------|-------|
| シーズ名        | 海水の柱状採水を用いた貝毒プランクトン発生予測 | 分類：10 |
| 所属 / 職 / 氏名 | 漁場保全部 / 主査専門研究員 / 加賀新之助 |       |
| キーワード       | 水産業振興、貝毒、柱状採水、毒化予測      |       |

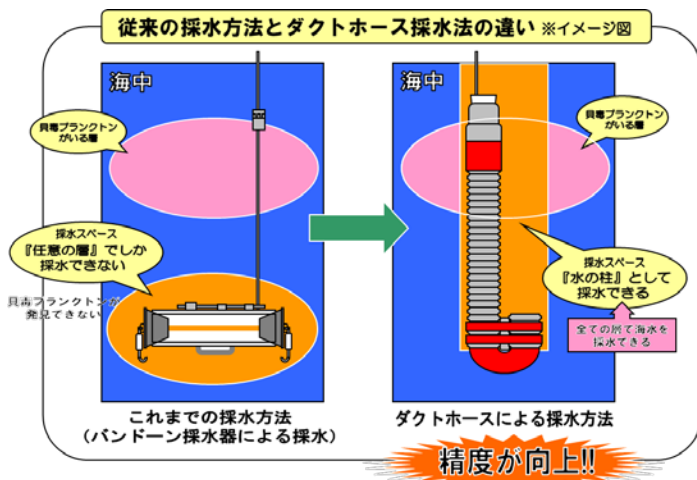
どんな技術？

一言アピール

塩化ビニール製の耐圧チューブ（ダクトホース）により海水の柱状採水を行い、貝毒プランクトン発生予測を行います。

### 【概要】

東日本大震災後に、貝毒によるホタテガイ出荷自主規制の長期化・広域化が起こり、震災後に出荷を再開しようとしている生産者の計画的な生産を妨げています。そこで、（独）水産総合研究センターと大分県が開発し、本県でも震災前から実施していた本法を用いて貝毒プランクトン発生予測を行います。今後、現場普及に向けて改良を検討していきます。



### 何に使えるの？

ホタテガイ等二枚貝の計画的な生産に貢献します。震災後の水産業復興を加速させます

|       |   |
|-------|---|
| 関連特許  | なし  |
| 関連資料等 | 宮村和良, 松山幸彦, 呉碩津. 大分県猪串湾における有毒渦鞭毛藻 <i>Gymnodinium catenatum</i> の出現と海水懸濁物の麻痺性貝毒量およびヒオウギ <i>Chlamys nobilis</i> の毒化予察. 日水誌 2007; 73: 32-42. |